

ライオンズガーデン調布ヶ丘管理組合 御中

「ハリウッドの大寒桜」 2 本
治療（土壌改良、不定根誘導）
写真報告書

作業日：2023 年 11 月 28 日、29 日 8：30～16：30

内 容：A オオカンザクラ 土壌改良（低木除去、坪穴等、マルチング）

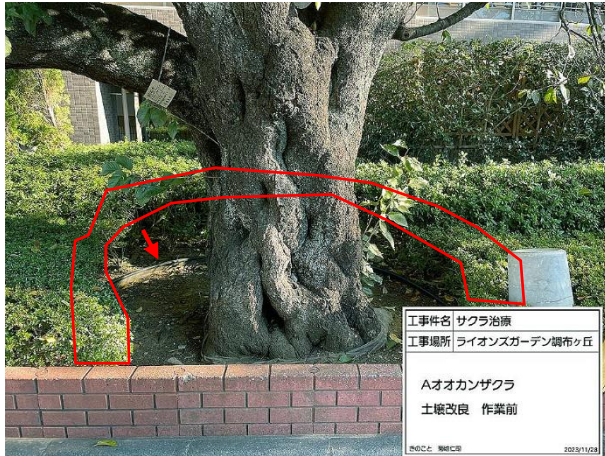
B オオカンザクラ 土壌改良（低木除去、坪穴、マルチング）、

不定根誘導、樹皮枯死部保護

施工者：きのこと 菊地仁司 篠田 亮、土屋光司、他 1 名

作業写真：A オオカンザクラ 土壌改良

- ・根元周囲の低木（一列□）及び円形の見切り材（→）を撤去
- ・根元周囲に坪穴と長さ 1m 溝の掘削、それぞれ土壌改良資材での埋め戻し
- ・根元周囲にくん炭、腐基土、腐葉土でのマルチング



A 土壌改良 作業前



A 土壌改良 作業前



A 土壌改良 作業中（1 m溝）



A 土壌改良 作業中（坪穴）



A 土壌改良 作業後



A 土壌改良 作業後

作業写真：A オオカンザクラ 土壌改良



A 土壌改良 作業前



A 土壌改良（1 m溝） 作業中



A 枯枝除去 作業後



A 土壌改良 作業後



A 土壌改良 作業後

作業写真：B オオカンザクラ 土壌改良

- ・根元周囲の低木（一列 $\square$ ）及び円形の見切り材（ $\rightarrow$ ）を撤去
- ・根元周囲に坪穴の掘削、土壌改良資材での埋め戻し
- ・根元周囲にくん炭、腐茎土、腐葉土でのマルチング



B 土壌改良 作業前



B 土壌改良 作業前



B 土壌改良 作業中



B 土壌改良 作業中



B 土壌改良 作業後



B 土壌改良 作業後

作業写真：B オオカンザクラ 不定根誘導

- ・建物側の根元に発生しているコフキタケ（○）及び周囲の樹皮を除去
- ・コフキタケのある箇所は窪んでおり、その周囲の樹皮は生きているため、
ピートモス等を詰めて充填、ビニールとフェルトで被覆し、発根を促す不定根誘導を実施



B 不定根誘導 作業前



B 不定根誘導 作業中（資材充填）



B 不定根誘導 作業中（コフキタケ、樹皮除去）



B 不定根誘導 作業中（資材充填）



B 不定根誘導 作業中（樹皮除去）



B 不定根誘導 作業後（被覆）

作業写真：B オオカンザクラ 樹皮枯死部保護

- ・点線範囲内の樹皮が枯死し、それまでなかった腐朽菌子実体の発生を9月に確認
→放置すると腐朽菌が広がって今後の生育に負の影響が出る可能性があるため、
枯死部の樹皮と腐朽材を削り取り、癒合剤を塗布（バッチレートに墨を混合したもの）



B 樹皮枯死部保護 作業前



B 樹皮枯死部保護 作業中（樹皮、材削り取り）



B 樹皮枯死部保護 作業中（樹皮、材削り取り後）



B 樹皮枯死部保護 作業後（癒合剤と墨を混合）

以上が今回実施したサクラの治療（土壌改良、不定根誘導他）となります。保安全管理と合わせて今回確認したA、Bそれぞれの現状を下記に御報告させていただきます。

A オオカンザクラの現状

頂部付近に枯枝が点在しているため、上部の枝が衰退傾向にある可能性が疑われましたが、想定よりも枯枝は少なかったことと、幹分岐部付近や大枝からの胴吹き枝が多数伸長しており、樹勢は維持されていると考えられます。胴吹き枝を成長させていくのと同時に、車道上の枝を今後剪定で管理していくことが優先事項と考えられます。ただし、内部腐朽は以前の機器診断で確認されているため、被害進行には継続的な注意が必要です。



B オオカンザクラの現状

A に比べて明らかに衰退が進行している状態は変わりません。

2022 年 3 月樹木診断報告書にも記載しました根元・幹の樹皮枯死と、コフキタケへの対応を今回実施致しました。不定根誘導によって幹からの新しい根の発生を促し、新たな養水分の供給経路ができることを期待して、2～3 年後に被覆を取り、発根状況を確認する必要があります。

新たな大枝の枯れが発生しましたが、A 同様に頂部の枯損は想定よりも進んでいないこと、幹分岐上部と大枝

の胴吹き枝がかなり増加したことから、衰退を多少軽減できているのではと推測されます。しかし、頂部を形作っている古い大枝は今後も徐々に衰退する可能性があるため、引き続き不定根誘導（大枝の根元に処置をし、既存の古い枝の衰退を軽減し新しい枝の発生を促すため）の実施が、今後の樹勢の維持や回復、可能な限りの樹形維持に繋がるのではと考えられます。



合わせて、日常的な管理についても記載させていただきます。B には今回含めて 2 箇所の不定根誘導実施箇所があります。茶色いフェルトで被覆されている内部にはビニールでも被覆されているので比較的乾

乾燥しにくい条件となっていますが、徐々に乾燥が進行していきます。フェルトの上端からホース等で水をあげることで充填資材が保水された状態になり、より発根しやすくなります。

今回の作業時には A、B オオカンザクラ根元周囲の土壤もだいぶ乾燥している状態でしたので、土壤への灌水も含めて定期的に行うと良いかと存じます（秋・冬の頻度としては週 1 回から 10 日間に 1 回程度）。注意点としては、頻度よりも一度の灌水でたっぷりとあげることが重要です。表面を軽く濡らす程度の灌水だと土壤の通気性が悪化しますので、土壤深くまで水が沁みこんでいくように十分に灌水することが肝要です。厳密に頻度を守って常時土壤が湿った状態にしておくというよりも、土壤が乾燥してきたらたっぷりと灌水する、というあげ方が樹木にとっては望ましい灌水となります。

また、落葉の落ちる時期ですので、今回マルチングを実施した根元の周囲やその外側の低木下に落ちた葉を敷設していただくことで、土壤が乾燥しにくくなります。また、長期的に見るとその落葉を餌とする土壤動物や微生物の増加と土壤改良に繋がっていきますので、落葉の敷設も合わせて実施していただけますとオオカンザクラにとってより良い土壤に繋がると考えられます。